

# 注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察 注意報第1号

## 麦類 赤かび病

1. 発生地域（対象地域） 県下全域
2. 発生程度 多
3. 注意報発令の根拠

- (1) 4月後期の巡回調査（大麦9筆、小麦15筆）の結果、大麦では発病穂率は3.6%（平年0.0%）、発生圃場率は100%（同12.5%）、小麦では発病穂率は1.9%（同0.0%）、発生圃場率は86.7%（同2.5%）であり、大麦小麦とも発病穂率及び発生圃場率は、過去10か年で最も高かった（図1、2、3、4）。
- (2) 本年の大麦及び小麦の防除適期に雨天が続き、適期防除が困難な気象条件で推移した。
- (3) 気象予報（福岡管区气象台、令和6年4月25日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より高く降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。

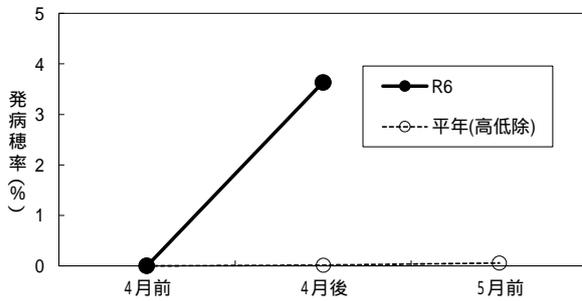


図1 大麦赤かび病の発病穂率の推移

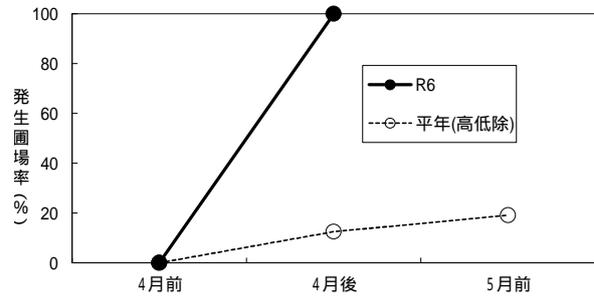


図2 大麦赤かび病の発生圃場率の推移

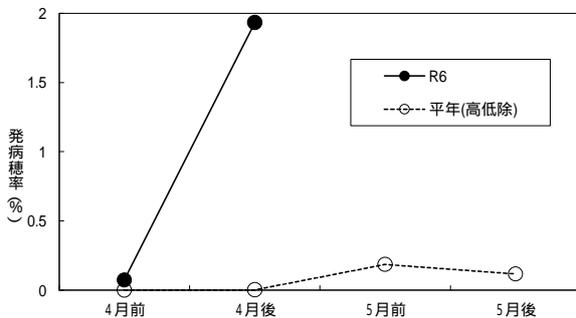


図3 小麦赤かび病の発病穂率の推移

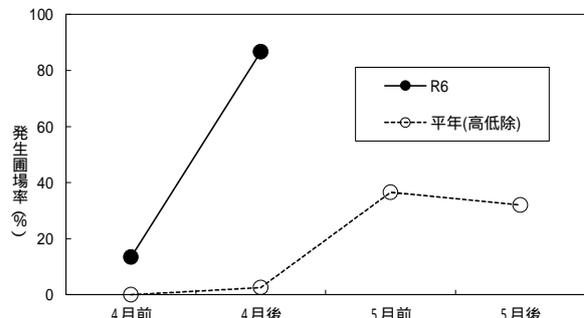


図4 小麦赤かび病の発生圃場率の推移

#### 4. 防除対策

- (1) 大麦の2回目の防除適期である葯殻抽出期の7～10日後（出穂期の約3週間後）、小麦の2回目の防除適期である開花10～20日後頃（出穂期の20～30日後頃）の薬剤散布を実施する。

- ( 2 ) 2 回目防除が実施されていない場合は、収穫前日数及び使用回数に注意して速やかに実施する。
- ( 3 ) 刈り遅れにより降雨に当たると、DON、NIV 等のかび毒産生が助長されるので、適期に確実に収穫する。
- ( 4 ) 収穫時に乾燥不良のものは、袋の中などで本病がまん延することがあるので、十分乾燥する。

参考 小麦各品種の出穂期（長崎県農林技術開発センター、諫早市）

麦種	品種名	本年値 (実測日)		平年値	
		播種期	出穂期	播種期	出穂期
小麦	チクゴイズミ 長崎 W 2 号	11/24	3/23	11/26	3/28
		11/24	4/4	11/26	4/3

注 1 ) 平年値は過去 5 か年の平均値

注 2 ) 出穂期：全茎の 40 ~ 50 % が出穂した日

穂揃期：全茎の 80 ~ 90 % が出穂した日

---

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<https://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室 (長崎県病害虫防除所)

T E L : 0957-26-0027

